

## 令和元年度学位記、並びに修了証書を授与される皆さんへの祝辞

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学は、今年度の卒業式の中  
止を発表いたしました。卒業式の中止は、私たち山口東京理科大学の教職員も本  
当に残念です。

皆さんもご存じのように、新型コロナウイルスの感染を最小限に食い止めるため  
には、私たち個人個人が細心の注意をはらって感染が広がる可能性を排除する必  
要があります。私たち教職員はそのための会議を重ねました。その結果、“卒業、並  
びに修了される皆さんが、社会に出る前に新型コロナウイルスに感染するというリス  
クは絶対に避けるべきである”との判断から、卒業式の中止という苦渋の選択をい  
たしました。ご理解いただきたくお願い致します。

本来、卒業式、並びに修了式は、山口東京理科大学で学んだ成果として学士  
号・修士号・博士号を取得された皆さんのこれまでの努力を称え、お祝いをする最も  
重要な式典の一つです。このような重要な式典を中止せざるを得ないことは誠に残  
念でなりません。

卒業式が中止されることについては、学生の皆さんをはじめ、ご家族、保護者の  
皆様方の悔しさは私たち教職員の場合に比べ何十倍も大きいと推察されるだけ  
に、私たちも複雑な思いをしております。

ここに、本学の教職員を代表して、心からお詫びを申し上げます。

卒業式は行いませんので、理事長としてのお祝いの言葉を述べさせていただきます。

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学において、令和元年度に  
卒業、並びに修了し学位を取得される226名の皆さんに心からお祝いを申しあげま  
す。

皆さんは、山口東京理科大学において、授業、実験、研究、これらの成果の発  
表、学内外での課外活動などの体験を通して、多くの知識を吸収し自ら考える力を  
養うと共に、知識、技能、教養などの工学系技術者、研究者として成長するため  
の様々な能力を身につけるために、研鑽を積んでこられ学位記、並びに修了証書  
を取得されました。

皆さんのたゆまぬ努力を深く称え、最も多感な青春期を山口東京理科大学で過ごしていただいたことに対して感謝いたします。ありがとうございました。留学生の皆さんにおいては、遠く母国を離れ、言葉、文化、習慣の異なる山陽小野田の地で環境を克服され卒業されることに対してもその努力を称えます。

あわせて、卒業、並びに修了される皆さんが、学業に励んでこられた今日までこの日が来るのを楽しみにされ、物心両面から支えてこられたご家族、保護者の皆様にも深甚なる敬意を表し心よりお祝いと感謝を申し上げます。

卒業、並びに修了される皆さんは、今日までのさまざまな思い出と共に、新しい生活への希望をもってそれぞれの道へ旅立っていきます。これから、新たな道へ自らが描いた海図に従って、自分という船を進めていくことができるのは、これまで皆さんが行ってきた努力の結果であることはもちろんですが、皆さんを支援してこられた多くの方々の深い愛情と限りないお力添えのお陰であるということをお忘れず、改めてその方々への感謝の念を思い起こしていただきたいと思えます。

さて、これから社会に出て働くわけですが、大学で学んだことは、形は別として様々な場面で使っていくこととなります。“大学では、社会に出てから知識を使えるようにできるだけ専門的に勉学すべきだ。そして、実業的な価値に結び付きやすい研究が大切である”という考えがあります。しかし一方で、今日の社会のように人工知能をベースとした、IT・IoTなどの発展により、日進月歩で移り変わる時代においてこそ、大学で身に着けた幅広い教養と専門的知識を生かすための基礎的・汎用的能力、そして、新しいことを学ぶ意義・方法といったことをもとに、日々変化していく社会でどのようにして生きていくのか、必要な知恵は何なのかなど、常に考え実践しながら進めていかねばなりません。個人レベルの狭い専門分野の知識だけでは、いくら深くても対応しきれなくなり、大学で得た知識が機能する期間はどんどん短くなりつつあります。このような世界の中で、幅広い知識を持って様々なアイデアを打ち出していける柔軟な思考する力をこれからも時間をかけて自分のものにするように心がけてください。

このようなときに思い出してほしい言葉を皆さんにお送りします。

“憤(ふん)の一字は、これ進学の機関なり、舜何人(しゅんなんびと)ぞや、予(われ)何人ぞやとは、まさにこれ憤なり。”という、佐藤一斎が言志四録に残したことばです。

その時々に関自分を高める、学問すなわち、各自の“志”を目指して人生を進めるために、最も肝要な気力の源は、発憤の“憤”の一字に尽きます。

私たちは、しばしば偉大な人を見て、“才能がある人はいいな”とか、“あの人は特別だから”と目を背けがちです。しかし、何かを成し遂げられる人は、“私もあの人と肩を並べるくらいになってやろう。”、“自分はやれる”と発憤し、その意気込みを最後まで継続した人です。この“意気込み”、つまり、“憤”こそが目標を達成するためのエネルギーになると、佐藤一斎は述べているのです。この“志”を立てることが最も重要ですが、それは人から強要されて出来るものではありません。“志”は自分の心から沸きだすものです。それでは、発憤の動機とは何でしょうか。

中国の昔、陳勝(ちんしょう)という貧しい小作人の農夫がいました。ある日、陳勝と一緒に働いていた同僚に「自分が将来、出世してもあなたたちのことは決して忘れませんから、変わらず仲良くしよう。」と言ったのです。しかし、人々は、「貧しい農夫の身で何を言うのだ。なんで豊かな農夫を望めようか。」と相手にしなかったのです。そのときに陳勝が言ったことばが、“燕雀(えんじゃく)安(いずく)んぞ鴻鵠(こうこく)の志を知らんや。” すなわち、“ツバメやスズメのような小さな鳥には、オオトリやクグイのような大きな鳥の志すところがわかるだろうか。”といったのです。後に、彼は同志と共に秦朝崩壊のきっかけを作ったのです。そのとき同志に向かって告げたのが、“王侯将相(おうこうしょう)いづくんぞ種あらんや。”つまり、国王や諸侯、将軍や宰相となる、生まれた時から決まった血筋、家柄がある訳ではない。すなわち、努力すれば誰でも実力で何にでもなれるということです。陳勝の場合の発憤の動機は、“恥”、すなわち、己の恥を知ることが発憤の動機になっています。発憤の動機には、学歴、事業の失敗、貧乏、リストラなど各自それぞれ違いますが、多くの場合には自分の足りないことを動機としています。ぜひ皆さんも、それぞれの“志”を目指して、急がずじっくりと腰を据え周りの方々とも仲良くして学問を勧めることによってこれからの激動の時代のなかで自分の世界を確立してください。

ここで、大学を取り巻く状況についてお話します。

情報化社会の急速な進展、知識社会の台頭、日本においては十八歳人口の減少、などの社会状況にも連動して、国内外において大学間の競争はますます厳しさを増しています。

このような中で、山口東京理科大学が公立化されて4年を経過しました。本学においても、永遠の発展を目指した、特色のある教育・研究・社会連携活動に努め

ていかなければなりません。そのためには、全教職員が一致団結して、大学のおかれている現状や時代の流れを、複眼的に読み解くと共に、本学の特徴や使命を再認識しながら、維持すべきものと新たに取り入れていく事柄、そのタイミング、程度などについて、具体的な戦略を立てて実行することによってのみ、変革の波を乗り越えて、変化する社会・産業界の期待に応えることができると確信しています。その結果として、世界に伍していくことのできる本学としての評価となり、永続的に進化し続けることにつながると考えます。

その源泉は人であり、山口東京理科大学は、在校生、教職員、卒業生、市民の方々と共に、常に広い複眼的な視野をもって、本学の課題を検証し解決しながら高みをめざし、何事にも誠実に取り組む人材を育ててまいります。そして、皆さん同窓生が必要だと感じた時には、いつでも戻ってこられる“開かれた場”となるように努めてまいります。

今日、卒業、並びに修了される皆さんには、健全な肉体と精神、そして、人間が持つ感性のすばらしさと共に、山口東京理科大学で身につけた基礎的専門的な力に誇りと自信をもって、多様な人がすごす社会というフィールドで、自らの場所を見つけて羽ばたいてください。

これからみなさんが挑む社会は、“競争”、“効率”、“改革”などが求められ、焦りが生まれたり壁にぶつかったりすることもあるでしょう。そのような時は、“憤”の一字を思い出してください。

山口東京理科大学は、いつまでも皆さんと共にあって、本学のつながりは永遠です。卒業、並びに修了されても、時間を作って、竜王祭やホームカミングデーなどの機会にも大学に戻ってきてください。

ぜひ、山口東京理科大学という“場”をたよりにしてください。私たちはいつまでも皆さんを歓迎します。

そして、県外に出られる皆さんにおいても、この“維新の地”で得た、友人、恩師、そして学生生活を支えて下さった市民の皆さんとの絆をこれからも大切にされ、将来、この地に戻り活躍されることを期待しています。

最後になりますが、本日の学位記、並びに修了証書を授与された皆さんは、入学した時と比べて、はるかにたくましく、また、人間的にも大きく成長したことを実感していることと思います。

皆さんをここまで熱心に指導して下さった先生方、勉学や生活に必要な素晴らしい支援をしてこられた職員、並びに市民の皆様に心から敬意を表し御礼を申し上げます。

全ての皆さんが幸多く実り豊かな日々を送られることを心から祈念して、公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の全教職員の想いを添えて、はなむけの言葉とさせていただきます。

学位記、並びに修了証書を取得され、誠におめでとうございます。

令和二年三月十八日

公立大学法人 山陽小野田市立山口東京理科大学

理事長 池 北 雅 彦